

財務諸表に対する注記

1. 継続事業の前提関する注記
該当なし。

2. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券の評価方法は、償却原価法（定額法）によっている。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価基準及び評価方法は、最終仕入原価法によっている。

(3) 固定資産の減価償却の方法

車両運搬具及び什器備品の減価償却は定額法によっている。

(4) 引当金の計上基準

退職給付金引当金については、職員退職給付に備えるため、期末要支給額に相当する金額を計上している。

(5) リース取引の処理方法

平成21年度までの所有権移転外ファイナンスリース取引については、引き続き通常の賃貸借処理に係る方法に準じた会計処理によっている。また、平成22年度から新リース会計基準を適用したため、当期の所有権移転外ファイナンスリース取引については、原則として売買取引に準じた会計処理によるが、重要性が乏しい場合には通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっている。

(6) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。 (単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
有価証券	199,981,576	2,712	0	199,984,288
普通預金	18,424	0	2,712	15,712
小 計	200,000,000	2,712	2,712	200,000,000
特定資産				
退職給付引当資産	92,507,909	6,103,647		98,611,556
減価償却引当資産	22,608,548	0	181,699	22,426,849
生涯学習推進特定資産	71,000,000	0	1,800,000	69,200,000
小 計	186,116,457	6,103,647	1,981,699	190,238,405
合 計	386,116,457	6,106,359	1,984,411	390,238,405

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。 (単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
有価証券	199,984,288	(199,984,288)	-	-
普通預金	15,712	(15,712)	-	-
小 計	200,000,000	(200,000,000)	-	-
特定資産				
退職給付引当資産	98,611,556	-	-	(98,611,556)
減価償却引当資産	22,426,849	-	(22,426,849)	(0)
生涯学習推進特定資産	69,200,000	-	(69,200,000)	(0)
小 計	190,238,405	-	(91,626,849)	(98,611,556)
合 計	390,238,405	(200,000,000)	(91,626,849)	(98,611,556)

5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
車両運搬具	2,359,000	2,358,999	1
什器備品	17,255,274	10,811,869	6,443,405
合 計	19,614,274	13,170,868	6,443,406

6. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時 価	評価損益
第180回神奈川県公募公債	50,000,000	53,191,250	3,191,250
第187回神奈川県公募公債	39,986,376	42,092,440	2,106,064
共同発行市場公募地方債	9,999,312	10,528,000	528,688
第32回川崎市公募公債	29,998,600	30,082,830	84,230
第85回川崎市公募公債	70,000,000	72,325,960	2,325,960
合 計	199,984,288	208,220,480	8,236,192

7. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
市補助金	川崎市	0	154,660,250	154,660,250	0	
合 計		0	154,660,250	154,660,250	0	

8. リース会計基準適用初年度開始前のファイナンスリース取引関係

(1) リース物件の取得価格相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額 (単位：円)

	器具備品
取得価格相当額	3,610,000
減価償却累計額相当額	1,444,024
期末残高相当額	2,165,976

(2) 未経過リース料期末残高相当額

(単位：円)

	1年以内	1年超	合計
未経過リース料期末残高相当額	721,539	1,555,179	2,276,718

(3) 当期の支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額 (単位：円)

支払リース料	764,400
減価償却相当額	721,992
支払利息相当額	58,416

(4) 減価償却相当額の算定方法は、定額法によっている。

(5) 利息相当額の算定方法は、リース料総額とリース資産計上価額との差額を利息当額とし、各期への配分方法については、利息法によっている。